

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 2 回社会教育委員会議	
開催日時	平成 30 年 7 月 18 日 (水) 午後 3 時 00 分～午後 5 時 30 分
会 場	クロスパルにいがた 4 階 403 講座室
出席者	<p>【社会教育委員】 岡 昌子、小川 崇、雲尾 周、笹川 博人、杉山 節子、田中 一昭、 田中 宏和、本間 莉恵、山田 久美子、渡邊 彩 計 10 名 (欠席：伊比 宗宏) * 敬称略</p> <p>【事務局】 教育次長、教育総務課副参事 2 名、地域教育推進課長、中央図書館長、 中央図書館館長補佐、生涯学習センター所長、所長補佐、 生涯学習センター職員 4 名 計 12 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 平成 30 年度社会教育委員等研修会参加報告 参加した岡委員、笹川委員、杉山委員、田中(宏)委員、山田委員が報告資料 1～5 に基づき参加報告を行いました。 →質問や意見はありませんでした。</p> <p>(2) 平成 30 年度指定都市社会教育委員連絡協議会参加報告 参加した雲尾委員が報告資料 6 に基づき参加報告を行いました。 →質問や意見はありませんでした。</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 平成 29 年度市政世論調査結果 (生涯学習関係) について ◎資料 1 に基づき、事務局から生涯学習に関する平成 29 年度市政世論調査の結 果について、回答の傾向を説明しました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白根図書館で読書会をしているが参加者集めに苦労している。 ・各設問への回答方法は項目をチェックするような形だったのか。 →当てはまる回答を選択する形式である。 ・若い人でも生涯学習に興味を持っている人がたくさんいる。 ・回覧板の情報も他の媒体であれば気付く人が増えるのではないか。 ・高齢世代は紙媒体で情報を得ている人が多い。 ・以前にも生涯学習に関して市政世論調査を実施したことがあるか。 →平成 20 年 12 月に新潟市市民意識調査結果報告書をまとめている。個人の 生活を豊かにするという項目の順位が高く、地域やボランティアは順位が低 いという傾向にあまり変化はないようである。 ・毎年調査を実施することは難しいと思うが、経年変化を追うことができれば 将来的に貴重な資料となるのではないか。 ・市からの情報提供という観点では、市報にいがたを見ている世代と、イン ターネットを見る世代とでは情報の得方がまったく違っている。 ・普段、高校生と話していて感じるのは、余暇の活動がポイント制度など何ら か形で評価されて、生かすことができると面白いのではないか。 ・自主サークルなどグループで生涯学習活動を行っている人の割合が高いので、 集まりやすい講座を開設したり、グループの人たちにいろいろなことを任せ

<p>内 容</p>	<p>て提案してもらったり、一緒に考えて講座を運営したりするとよいのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の目的はなくても、みんなで集まって何かをしたいという人たちも多いのではないか。 <p>(2) 第 33 期建議テーマ「社会教育による次世代育成」について</p> <p>◎資料 2 に基づき、生涯学習センター所長から今期の建議テーマについて、市政世論調査の結果も踏まえて議論を深めていただきたい旨、説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「次世代」というと、どのあたりの世代を想定すればよいのか。 ・高齢世代でも次世代育成は必要であり、10 代の人たちが社会教育に関わっていくような次世代育成も必要であると考え、あらゆる世代が想定される。 ・白根では凧合戦を次世代につなげるために、白根地区全域の小学生を対象にした凧揚げ合戦を実施しており、将来的に地元に戻って来ているように感じる。 ・地域にあるものをどう若者に定着させていくかということを具体的に考えていくと、次世代に何かをつなげるための方策が出てくるのではないか。 ・市内の小中学校では郷土愛や地域愛を育む取り組みが積極的に行われており、地元に戻ってくる子供たちも多くなると思う。 ・青年世代の公民館利用が少ないとあるが、時間的に難しい面もあるので、人数を増やすことも大事だが、講座などを継続していくことが大切だと思う。 ・地域にリーダーを作っていくと、そのリーダーが情報発信してくれる。 ・高校生や若い世代は、公民館の講座などに興味はあっても情報が届いていないので、広報や開催する時間帯などに工夫が必要。 ・松浜中学校では、地域の方がゲストティーチャーとなる講座を実施することで、4 年ほど前から祭りなど地域の行事に中学生も積極的に参加するようになってきている。地域に対する愛着も湧いて、子どもたちの意識も変わってきているように感じる。 ・子どもたちにとって、人と関わるということが大事。自分が地域の中に生きている地域の一員という実感が湧いてくると思う。 ・学校が地域とかかわることは時間も手間もかかるが、それを丁寧にやっていないと、子どもたちが自分はその地域の一員であるという実感は持てないと思う。 ・今は昔に比べて学ぶ機会が充実しているため、若い人はそんなに頑張らなくても学ぶ機会や支援を得られる。 ・学んだことを地域や社会に還元するような意識が育っていくともっとよい。例えば、公民館の講座を受講すると、学校の何かに生かされるという取り組みをモデル的に実施することはできないか。 ・一度地元を離れてまた地元に戻ってきたときに、その人たちが主体的にどのような参画をして地域を盛り上げていくかということが課題だと思うが、成人式が盛況なので、そこにヒントがあるように思う。 ・サークルも人間と同じで、誕生期があれば成熟期があって老年期もあると思う。老年期を迎えたサークルに新しい人はなかなか入りにくいので、新しいサークルを作る方法を考えていくべきではないかと思う。 ・中学生と高校生のグループが公民館でコンサートイベントを開催した際、実際には集まらずに、全て LINE で打合せをしていた。行政が公民館等で若者を対象に何か企画する場合には、そういうことも念頭において取り組むべき。 ・アンケート結果によると、若者の社会教育に関する関心が高いので、高校生
------------	--

<p>内 容</p>	<p>や大学生の活動や取り組みを見てみたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会教育による次世代育成」というテーマで考えると、広報の在り方も含めて、特に若い世代へ裾野を広げる方向性と既存の団体やサークルを維持していく方向性が考えられるように思う。 ・どういう人を育てたいというある程度のビジョンがあるとよいのではないか。 ・生きて働く学力、育てるための総合的な学習でもあるので、それぞれの目的まで合わせるのは、社会教育の中では難しい。 ・次世代育成の目的は、地域活動の活発化にあるかもしれないし、サークル側から見ると、組織の永続にあるかもしれない。 ・既存の団体をなくして、新しい団体を作ること次世代育成になるが、では新しい団体を作らなくては行けないか、という問題もある。 ・建議の方向性としてどういう方向性を望むか、ということだと思ふ。 ・家庭教育支援では、家庭教育学級の修了者が自主サークルを作って、子育て支援に回っているケースがあるが、その場合、支援している対象は子どもたちなのか、親の世代なのか、どこを育成しているのかはっきりしないので、特にどこに重点を置いてみるか、という問題もある。 ・子育てサークルで活動していた人は、時間に余裕ができたなら、PTA活動などで地域に貢献しているように思う。 ・地域での役割を作ることで余白ができて、次の世代が入って来られる環境を作って継承していくほうに重点を置くのか、あるいは新しいことを始める人たちの活動の場を作っていくのかというところで展開が変わってくると思うが、個人としては未来志向の後者が必要性が高いのではないかと思う。 ・「いろいろな世代の学びの充実」と、「世代を超えた学びの創造」というキーワードをビジョンとして進めていくとよいのではないか。 ・議論をまとめると、いわゆる少子化や人口減少社会の中で、社会教育の活動者自体も減少している。若者の流出も進んでいるような中で、地域で世代を超えた学びや交流を行って、地域づくりや社会教育の新たな担い手となる人々を生み出す。あるいは、学びを新たなところにつなげたり、既にある様々な学びを新たな活動などにつなげていったりするような人たちを作っていくために、社会教育として何ができるのかという方向性になるのではないか。 <p>→上記のまとめに、「世代を超えた学びの創造」と、「いろいろな世代の学びの充実」というフレーズを盛り込んで、趣旨を作ることとする。</p> <p>(3) 建議策定スケジュールについて ◎資料 3 に基づき、事務局から第 33 期社会教育委員会議の建議策定スケジュール（案）について説明を行いました。 →質問や意見はありませんでした。</p> <p>(4) 各種研究大会への参加について ◎資料 4、5 に基づき、事務局から新潟県社会教育研究大会および全国社会教育研究大会の日程などについて説明を行いました。 【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・締切はについて教えてほしい。 <p>→県大会は 8 月 10 日。全国大会は記載がないが同期日までお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後日スケジュールを確認して、参加希望者は事務局へ連絡する。 <p>4 閉会</p>
------------	--

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

傍聴者	1 名
会議資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告 1 平成 30 年度社会教育委員等研修会参加報告（岡委員） ・ 報告 2 同上（笹川委員） ・ 報告 3 同上（杉山委員） ・ 報告 4 同上（田中(宏)委員） ・ 報告 5 同上（山田委員） ・ 報告 6 平成 30 年度指定都市社会教育委員連絡協議会参加報告（雲尾委員） ・ 資料 1 第 44 回（平成 29 年度）市政世論調査（抜粋） ・ 資料 2 第 33 期社会教育委員会議建議テーマ ・ 資料 3 第 33 期社会教育委員会議建議策定スケジュール（案） ・ 資料 4 第 18 回新潟県社会教育研究大会糸魚川大会開催案内 ・ 資料 5 第 60 回全国社会教育研究大会青森大会開催要項